

鶴岡市総合計画審議会 第3回市民文教専門委員会（会議概要）

- 日 時 平成30年8月31日(金) 午前9時30分から
- 会 場 鶴岡市勤労者会館 大ホール
- 委員発言の概要

基本計画体系図（案）・施策の方向（案）について

第1章

地域の生活環境を保全し、一人ひとりの心が通い合い、お互いを見守り、支えあい、安心して暮らしていける地域コミュニティを構築します。

第1節 助け合い、支え合うコミュニティづくり

- ・住民自治組織のコミュニティリーダーが不足しているということや、自主防災組織の強化をもっと図らなければいけないという点において、住民の方々の無関心が非常に大きな原因となっているのかと思っている。市民一人一人が考えていかないといけない問題なのだと認識しており、今後自分の事として考えていく必要があると思う。ただ、一つの解決の糸口となるのではと考えているのが、公民館や空き家を利活用して、どんな年代の人も、大人も子どもも赤ちゃんもおじいちゃんもおばあちゃんも、全部が居てもいいんだよという、居場所を作るというのが、すごく効果的なのではと考えている。

第2節 地域の防災・防犯力の強化

- ・防災対策について、救急体制など人工呼吸や救命装置は非常に重要な部分を占めている。その中でAED除細動装置が大変重要な位置づけになると思うが、その装置が拠点施設に設置されていないところもある。設置について順次進めていくような方向性を打ち出した方が良いのではないかと。
- ・8月5日、大雨でかなり被害を受けたが、昔の地区公民館から活動センターになって良かったと思った。それは、やはり防災関係なのだが、地区の会長さんや役員さんが活動センターに集まってきて、避難所の準備をしていたのを見ることができた。公民館からなんで活動センターに変えないといけないのか、と言う地域の声もあったが、新たな発見があった。
- ・自分の家が心配だから、公民館に避難させてくれと言う方もたくさんいると思う。そういうところに対する人的支援や物資の支援ができるようになればいいと思っている。
- ・学校も避難所になるということは計画的には位置づけられており、防災安全課から発電機や灯光器や簡易トイレ、毛布などが配備されているが、学校でどのような形で避難所開設すれば良いか、打合せさせてもらいたい。避難所開設が夜・夜中とか休みの可能性もあるので、学校の鍵は誰が持っていて、誰がどのようにして開けて、担当職員はどなたで、どのような人が来て、避難所を開設して学校にどんな協力が求められるのか、打合を少なくとも数年に1回、つまり、校長も教頭も変わってしまう

ないうちにできないのかという思いがある。数年、2、3年に1回で良いと思うので、このような場合には、このような対応になるということやコミセンの状況を我々も知りたいし、学校が避難所になる場合の事をその関係者に知っておいてもらうということ、学校の協力体制はこんなことが考えられるということや打合せできればと思う。計画に載せるレベルなのか、実際に出来そうなレベルなのかその辺の判断はお任せしたい。

第3節 消防・救急体制の充実・強化

- ・各集落ごとになるが、可搬ポンプについては、団員の減少と緊急性を考えると、小型の車タイプに代えてほしい。

第4節 資源循環型社会の形成

- ・先日、最終処分場が決まり、市長はじめスタッフの皆さんの努力が実ったなどほっとしていた。また、現在、焼却炉も着工なったという事で、市にとってごみ処理の部分の一つの大きな転機にしてみてもいいのではないかと考えている。ただ、最終処分場などは期限15年という期限が有限であるので、やはりごみの処理、できるだけ処分場に持ち込まない分別のやり方もこの際検討すべき時期に来ているのではないかと感じている。この時期なので、総合計画に盛る盛らないという課題ではないと思うが、これを機会に物事をきちんと考えていき、15年の範囲内にどうするかということを含めて考えていく時期ではないか。

第5節 持続可能なエネルギーミックスの実現

- ・エネルギーミックスと書いてあるが、今鶴岡市の範囲内エネルギーミックスを論じるのはつらい部分があると思う。最適な需給バランスという表現があるが、そのイメージはどのように持っているのか、それに対してどういうアプローチをしていくのか。

第8節 過疎地域の活性化

- ・過疎地から子どもたちが成長していく中で、高校生くらいになると高校に通うのが大変だということで、中心部に移り住んでいくというのが過疎になる原因の一つと考えている。そういう意味で交通の問題に関する援助もしっかりと捉えて支援していく方向性を打ち出していきたい。
- ・中山間地域について何が問題かと言うと、この計画案には書いていないが、鳥獣被害というところでずっときていた。その対策が重要な問題であり、しっかりとした対策の検討を要するのではないか。
- ・中山間地域で言えば、施設・制度や農地などの荒廃についての草刈り作業など様々あるが、人口減少に伴い、地域の中でできなくなってくるという状況もあることから、全国的に見れば、草刈り隊を組織して中心部からも、そこから出て行った人達も含めて、その地域にまた協力をしてというようなこともあるので、国の交付金制度も十分利用しながら施策を進められるように検討してほしい。
- ・過疎化対策があるが、現状からみて、もう維持管理に本当に困っているというか、現状できないのではないかと考えている。

第3章

歴史と伝統に育まれた優れた文化のもと、ふるさと鶴岡を愛する、いのち輝く人間の育成に向けて、学びや体験の環境を整えます。

第1節 学校教育の充実

・ 細節として4つの項目を設定し、新たな計画を立ち上げていただいていることにたいへん有り難いと思う。是非これらを積極的に推進していただきたい。

1 細節で、「特別支援教育の視点を大切にした学級担任力等の向上」とうたわれていて大変ありがたいが、今後の特別支援教育の充実について、次の具体的な計画の文言作成の段階では、どのような方向を目指しているのかということ、是非具体的に記述していただきたい。

特別支援教育について力を入れて取り組んでいて、非常に大きな成果をあげていると実感しているが、これまでの計画が一旦今年で終了するような段階にきていて、今後どのような計画を立案するのかという時期にきているので、是非今後の計画に期待したいと思っている。

・ 2 細節 地域と協働する学校についてだが、コミュニティスクール制度の導入を含めて、地域と協働する学校づくりということについて、今後進めていかなければならない方向であるのは間違いないと考えている。そこで、国の事業の活用ということも含めてだが、県や市も含めて予算的な裏付けというものが、かなり重要になってくるだろうと思っている。地域と学校の連携という意味では、それをコーディネートする人の役割が非常に大きいと感じているので、国の事業があるうちは、国からの事業費用を活用することで、謝金などの手当てを確保できると思っているのだが、今後のコミュニティスクール制度がどんどん進んでいき、ほとんどの学校が取り入れることになった時には、国は手を引いてくるのではないかということ、を心配している。そうなった時にボランティアでコーディネートということは長続きしないのではないか。やはり、県なり市なりで財政的な支援のところまで計画として見ていく必要があるのかなと思っている。

・ 3 細節 「適正な教育環境の整備」のところでのお願いだが、計画に盛り込む段階ではなく、今今のことであれば別だが、エアコンの設置についてである。今年度は猛暑で授業を打ち切って一斉下校をするという初めての経験をした。おそらく、来年度以降も続くのではないかとと思っている。そうなる、やはりエアコンの整備は北国の本市においても待ったなしの状況なのではと思う。国や県の補助の関係もあるが、1、2年で整備ということは難しいと思うので、何年間の計画ということになるが、そこをこの計画の中に盛り込んでいくのか、これとは別になるのかということも判断いただきながら、計画的な整備をお願いしたい。

第2節 社会教育の充実

・ 5 細節 図書館についての今後の施設整備が課題であるという事が書かれているが、図書館を立て直すという事は、多くの財源が必要でそんなに簡単に出来ないことは重々承知のうえではあるが、今後長期的に見直す計画の策定の時期なので、もう一步踏み込んだ記述をお願いできないか。

・ 2 細節 「社会教育活動のための施設の充実」と記載されているが、施設の充実とは何か作っていただけののかと思った。2 細節の文章に「社会教育活動を実践するなど」云々という、施設として主語

が何かないという気がするが、これは、もしかしたら、既存のコミセンや公民館の事を言っているのかという気もするが、何か計画があるのであれば伺いたい。

- ・日頃いろんな人から聞く中では、游心館の様な本格的なお茶席ができるような施設がほしい、というような声が聞かれたりする。
- ・4 細節で、「豊かな自然の中での子供の育成」とあるが、鶴岡の豊かな自然の中で子どもを育てるのは、全国の中でもとてもいい環境だと思っているので、その充実がさらにあったらいいなと思っている。学校の中でも。スキー教室や海での活動はあるが、地域の中でできる人が鶴岡の自然の中で、山登りだったり、カヌーやスキー教室についての補助が今はあるが、そういうことにも充実継続をしてほしい。自然の中でどのように充実していけるのかがあれば伺いたい。

第3節 文化芸術の振興

- ・芸術文化活動についてだが、県の事業で芸術文化協会所属の団体が放課後子ども教室の子ども相手に、伝統文化やいろいろな文化活動に関することを教えることについての補助がでている。とてもいい事業だと思うのだが、今年で終わるので、来年以降も市としてそれを継続してほしい。せっかく鶴岡市の芸術文化協会が充実した体制であるので、それをもっと子どもたちと繋げるようなことを継続していただけないかということ、芸術文化の一つとしてお願いしたい。

1 細節の「市民の芸術活動の環境充実」のところで、文化会館・アートフォーラムとあるが、せっかく「タクト鶴岡」ができたことだし、「タクト鶴岡」とはっきり書いていただいて、「タクト鶴岡」を全市を挙げて活用していくように示していただきたい。

第4節 文化資源の保存・継承・活用

- ・現状・課題のところに、貴重な文化財についての価値を明らかにする調査が計画的に行われていない状況にある、とか、保存継承が危ぶまれているとの記載があるが、文化財審議会の会合で、社会教育課の文化財係で文化財調査の個票の整備を始めようということであった。それから鶴岡市の民俗芸能保存団体の連絡会を立ち上げようという意見交換会を通して、課題解決をしようと言うような動きがあるので、良い成果が得られることを期待している。
- ・2 細節で、「郷土理解のための歴史資料の保存と活用」と記載されているが、このところに、未だまだうずもれている手つかずの資料が大分あるので、このところに「調査・研究」の文言も入れた方がいいのでは。
- ・この計画に反映していいか分からないが、現在郷土資料館の中にある市史編さん室をそのまま置くのか、改変するのか、様々な問題があり、議論が必要だが、鶴岡市の文化遺産の研究所みたいなものを作って、より明らかに、これが鶴岡市のものだと、学術的にも裏付けできるような施設のようなものがあつたらいいと思っている。
- ・3 細節の「文学資料の調査研究」とあるが、調査研究だけでなく、ここに活用するのだという事の文言を入れたらいいかなと思っている。文章の中に、「その成果について既存施設を活用し」と書いてあるが、これを「既存の施設で」と言う形で入れた方がいいのか、この文言は取った方がいいのかなど

思っている。

- ・文化財に関することだが、撮影できるものなら、なんでもデジタル化することができると思うので、とりあえずデータ化してデジタルアーカイブを活用し、価値ある物だけ復元したりとか、複製を作るという形をとって、2018年時点、この文書、絵画はこういう状況だったということデータを優先的に考えていただきたい。できることなら、デジタルアーカイブを専門的に扱う人材の育成集団などがあればベストかなと考えている。

第5節 市民スポーツの振興

- ・スポーツ、文化活動の振興とあるが、高齢化しているので今後参加者が少なくなってきたり、高齢化による活動のドーナツ化が見受けられると思う。
- ・屋内運動場の整備も長年言われているが、まだまだというところもあるので、充実ということでは、公民館とかコミセン以外で何か計画があるのであればその辺を伺いたい。

第6節 学校給食の充実

- ・引き続き第3子以降について給付制度により、給食費の負担軽減をしていきたいということは大変ありがたいことだと思うが、すべての子どもたち、によりよい給食をとという意味合いからすれば、不満があるかもしれないが、給食費を無料にするというようなことでしたら、もう少し子育て支援としてのインパクトのある施策になるのではと考えている。
- ・学校給食の充実だが、今後給食センターをどのような形で整備していくかということが大きな課題であり、すぐ計画に文言として盛り込むのは難しい部分もあると思うが、ここに記載されているとおり、食物アレルギー問題の対応が、学校では今非常に大きな課題として抱えている。この問題に何とか給食センターで対応頂ける部分に、もう一步踏み込んで出来ないものかと思っている。学校、保護者との連携の中で、また医療機関との連携の中で対応しているわけだが、施設設備、献立という部分で対応できる部分について、もう一步踏み込んだ計画、記述をお願いできないか。

第7節 都市交流の推進

- ・都市交流となると鹿児島県の鹿児島市や曾於市、あるいは北海道の木古内町で学校との連携が進んでいる。物を送り合ったり、子どもたちが交流したりというところが続いているわけだが、それを維持するのが大変になってきている。交流には非常に意義があることなので、相手もある事だが、なんとか交流を維持・状況によっては拡大できるような計画にしていきたい。

第8節 国際化の推進

- ・国際交流だと、ニューカレドニアのラフォア市との中学生の訪問交流や、復活するようだがニューブランズウィック市への中学生の派遣など、このような交流も是非、継続・拡大というところを明確に打ち出して、今後の子どもたちが国際社会で生きていくところを重視していくという市の姿勢を、ぜひ示していただきたい。

その他

- ・市民文教専門委員会での意見と各分野政策項目との関係表に、すでに章・節・細節が設定されているが、教育関係の部分を中心にこの資料を見るかぎり、具体的な文言が、今日の段階の調書には触れられていないものもあると思った。ぜひ、この専門委員会が出されたもの、しかも章・節・細節に設定されているものについては、具体的な文言を、計画を作成する段階でなんとか盛り込んでもらいたい。例えば、関係表の「人づくりによる人材の確保」に関係するようなどころであれば、教育分野で学校教育支援員、外国語サポーター等の人的な支援の拡充、こういった部分について具体的な文言として盛り込んでいただけないか。あるいは、「若者・子育て世代、高齢者、障害者に配慮し、誰もが活躍できる地域社会の構築」では、不登校、引きこもり対策に関係するよう文言についても、今日の資料の段階では確認できない。他にもいくつかあるが、そういうところをなんとか具体的な文言で計画に盛り込んでいただくよう、次の作業の段階でお願いしたい。
- ・全体的に文章を見ると、新たに取り組みますという項目が市民目線では分からない。今まで継続してやってきたことを強化するのであれば、強化する部分に下線を引いたり、また、今回新たにやっていくことはここですよと分かるように下線を引いて。目に見えるように策定したらどうか。